

明治国際医療大学だより

News from Meiji University of Integrative Medicine

Vol.3

大学情報誌

東日本大震災で被災された皆さまには心よりお見舞い申し上げます。
皆さまの安全と、被災地の1日でも早い復興を心からお祈り申し上げます。



東日本大震災義援金募金活動の報告とお礼

2011年3月11日に東北地方太平洋沖地震が発生してから2カ月あまりがたちました。私がこの巨大地震のことを知ったのは、夜、家に帰りテレビを見てからでした。すべてのチャンネルにながれる映像は、私が生まれて初めて見る驚愕の光景でした。渦をまいて流される家々や自動車、それを見つめる人達の姿に、私の頭の中はしばらく真っ白になりました。そして我にかえって最初に思ったことは、何か自分にできることはないのだろうか、ということでした。しかしながら、知識も技術も経験もない看護学生の自分に、いったい何ができるのか。そんなことを考えている時、友達の中から募金活動をしないか、という話しが持ち上がりました。おりしも3月15日は卒業式が予定されており、その日に募金活動をしたいと大学に申し出たところ、こころよくご賛同、ご協力いただきました。募金活動は初めての学生ばかりでしたが、当日はご来賓や保護者の方々、卒業生、在校生、そして教職員の皆さんからも、多くのご協力をいただきました。

その後、入学式での募金活動や学内各所への募金箱設置を行い、

4月27日時点での総額26万3,842円を、東日本大震災義援金として京都新聞社会福祉事業団に託しました。被災された方々は、今もたいへんつらい生活をおくられています。そんな中で、私達の活動はほんとうにささやかなもの

だと思います。けれども、これが今の自分にできる精一杯のことと考え、今後も続けていきたいと思っています。最後に、募金活動を通して、人と人の繋がりがや、その繋がりの大切さを実感することができました。ご協力くださいました皆様、ほんとうにありがとうございました。



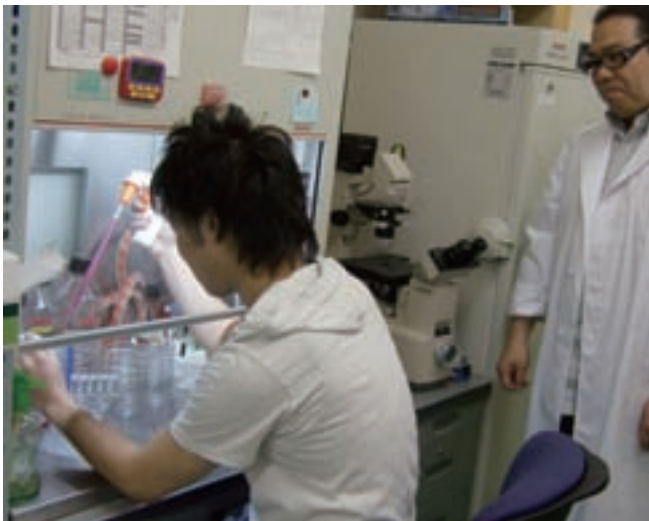
[学生有志代表 看護学部4年生 若松祐太]

医学教育研究センター

今回は 鳴瀬善久先生の卒業ゼミを紹介します。

医学教育研究センター 鳴瀬善久准教授(解剖学ユニット)

この研究室では、柔道整復師が診る「腱」や「筋肉」を様々な組織の細胞に育つ能力を持ったiPS細胞(人工多能性幹細胞)から作製し、iPS細胞の移植による治療を目標に研究しています。現段階では、細胞の数をコントロールするなどの細胞培養の基礎的なテクニックを習得するため、日々細胞と闘っています。細胞が予定通り増えているかをチェックし、増えていない場合はゼミ生4名で話し合い、原因を考えています。今後は、先輩達が皮膚の細胞から作製した、“光る”iPS細胞を用いて、「腱」や「筋肉」を損傷したマウスへ移植し、治療効果があるかを研究していく予定です。



細胞培養の様子



毎週行っているゼミの研究報告会



カウントした細胞数をコンピューターに入力して、細胞増殖曲線のグラフを作成(順調に増えていたか検討中)



ゼミ生:尾崎君、村上君、加藤君、光信さん(保健医療4年生)、鳴瀬先生

鍼灸学部 鍼灸学科

第2回

「経絡経穴学基礎実習I」

鍼灸学部の授業風景を紹介する本企画、今回は1年生の実習風景をご紹介します。

伝統鍼灸学教室 水沼 国男 講師

この講義は、全身に365以上あるとされている経穴(ツボ)について、1年前期から2年前期の1年半の期間をかけて講義・実技を行います。講義では、鍼灸医学臨床の共通言語となる経穴(ツボ)の名称や部位、気の流れる通り道である経路について学びます。実技では、講義で学んだ経穴を実際に学生同士モデルになり身体に取穴(ツボを取る)します。知識とわかっていても骨や筋肉を確認することは、なかなか難しく取穴するのが大変な実習です。臨床では、様々な年齢、性別、体格の方が来院されます。ここで、様々な人を取穴しておくことが、将来の臨床につながります。



授業情報

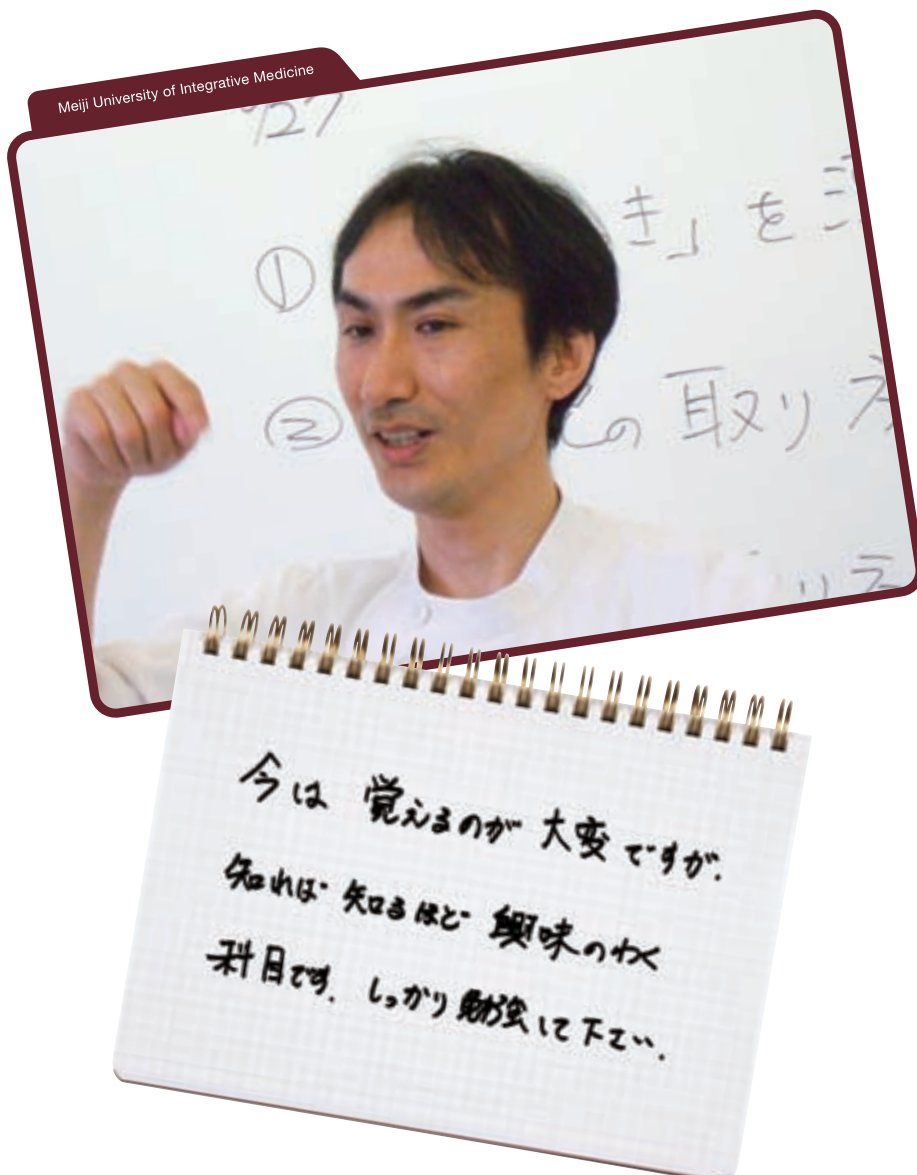
科目名: 経絡経穴学基礎実習I

単位数: 1(必修)

授業時間: 30(前期後期合計)

経絡経穴学基礎で学習した十四経の経穴の名称、取穴法の理解を前提として下記の事項を行います。

1. 身体を観察することにより、骨、筋肉の走行等を理解し、実際に体表で確認できるようになる。
2. 各経絡が人体のどの部位を走行しているかを理解し、各経穴との関係(縦・横の関係)を確認できるようになる。
3. 各経絡に所属する個々の経穴の取穴について学習し、実際に人体で正確に取穴を身につける。



保健医療学部 柔道整復学科

第3回 教室紹介

「臨床柔道整復学Ⅱユニット」

担当授業科目

〈科目名〉

傷害鑑別診断法 傷害鑑別診断法実習 脱臼治療学
脱臼治療学実習 臨床総合実習 スポーツバイオメカニクス

教育

臨床柔道整復学Ⅱユニットにおいては、受傷後疾患の状態把握を行うための鑑別診断学・実習を担当しています。このうち脱臼治療学において、受傷機序、整復、固定および後療法を軟部組織損傷と共にバイオメカニクス手法で解析を行っています。また基礎で習得した知識を卒後即実技可能となるよう臨床実習を行っています。ユニット教員がアスレチックトレーナーとして各種スポーツ現場(スキー、バドミントン、テニス、サッカーやゴルフなど)でトレーナー活動、教育を行っています。“楽しく、明るく、元気な学生生活”をモットーに!勉強、遊び、そして教員との交流の場でも楽しく元気な学生生活が送れるように、とのスタンスでいます。



岡本武昌教授(前列左)、行田直人准教授(前列中)、泉晶子助教(後列中)

研究テーマと活動



学生自身が研究したいテーマをできるだけ沿うように行っています。今年は、バイオメカニクスの観点から、テーピングや包帯実施時の動的制動効果について、膝疾患に対する手技療法の効果について、を行っています。また、通例で本学教員からの指導だけでなく、学外の学識者からの意見を聞きながらより密度の濃い研究が行えます。研究成果は、毎年ゼミ生が学会発表を行っています。

その他イベント



毎年、私達はゼミ生と夏のバーベキュー、年始に国家試験合格祈願詣、卒業旅行を行っています。卒業旅行では、企業見学等を取りいれながら、異分野の社会勉強をするなど有意義で楽しい思い出となっています。

「新1年生の大学生活の紹介」

—入学して3ヶ月経ちました—



1年生学年アドバイザー 寺谷愉利子(成人慢性期看護学教授)

看護学部は入学定員60名の所、社会人10名を含む75名が入学しました(男性24名、女性51名)。北は山形そして南は沖縄から迎えました。学生アドバイザーの中島小乃美(基礎看護学准教授)、守口絵里(小児看護学講師)、北村雄児(精神看護学助教)、松川泰子(地域看護学助手)の4名で日々の学生生活や学習支援を行っています。そんな新1年生の入学以来3ヶ月の大学生活を紹介いたします。

■入学式



[4月5日(火)晴れ]
山田学部長と看護教員と共に、看護学部同窓会「なごみ会」から送られた花が新入生を歓迎しました。

■フレッシューズキャンプ



[4月22日(金)・23日(土)雨]
体育館でのミニ運動会の後、2~4年の先輩とともに宿泊施設へ移動し、学生生活についての交流会を行いました。

■アーリー・エクスポージャー(早期臨床体験学習)



[5月21日(土)]
今年初めての試みとして、半日宇治徳洲会病院見学をしました。そこでは、働く医療者の姿に将来の「なりたい自分」が意識づけられました。

■京都の文化と看護学(選択科目)



[6月24日(金)] 科目担当者(寺谷)と英語の講師が着物姿で「英語圏と日本語圏の異文化」を講義しました。

■第1回オープンキャンパス



[6月26日(日)] 体験授業を手伝う2年の先輩と一緒に学生ボランティアに参加しました。

■生活援助論 I



[6月28日(火)] 移送・移動の演習風景です。3人の看護師役が患者役の学生をベッドに移動するところです。



震災ボランティア派遣の報告会開催



被災地でボランティア活動を行いたいと考えている学生たちからの要望で、5月18日にボランティア講座を開催しました。ボランティア講座には20名ほどの学生が集まり、今井先生からボランティア活動に関する心構えやボランティア活動をするにあたっての注意事項等をご自身のボランティア経験で踏まえて講義してもらいました。

また、5月24日にはボランティア活動報告会を開催し、実際にボランティアに参加された3人の先生方をお招きし、ボランティア活動を通じて体験した貴重なお話をお伺いしました。当日は学生・教職員合わせ約50名が集まり、熱心に先生方のお話に耳を傾けていました。先生方からは、これから現地でボランティア活動を行おうと考えている場合は、食料や宿泊先などの準備はもちろんのこと、被災地では予期せぬ危険を伴う場合もあるので、自分の身を守るのは自分であるという意識をきちんと持って慎重に行動することが大切であること、さらには自分一人で行うのではなく、団体(各地方自治体・公共団体・NPOなど)に登録するのが望ましいことなどがアドバイスされました。

被災地でのボランティア活動

本学鍼灸学部4回生の内藤玄吾君と三浦洋平君がGWに、宮城県石巻市牡鹿半島に東日本大震災のボランティア活動に参加し、地元の漁師さんと共に、浜に打ち上げられたブイや筒などの漁具の回収や、造船所の泥かきや瓦礫の除去作業を行いました。

二人は、「自然の恐ろしさを肌で感じました。被災地は未だに大変な状況。支援の意識が薄れていってはいけないと思います。継続して支援を続けることが大切だと思いました。今回は、大学生ボランティアとしての参加でしたが、活動を通じて鍼灸治療が支援として役立つことを知ったので、今後ボランティアに参加する機会があれば鍼灸師として参加したい。」と語ってくれました。



国際支援団体AMDAとの連携協定を締結



このたびの東日本大震災において、国際的な医療支援団体である特定非営利活動法人アムダ (Association of Medical Doctors of Asia以下AMDA) の派遣依頼を受け、鍼灸学部今井賢治教授と伊藤和憲准教授が鍼灸治療による支援活動を行ってきました。このことから、本学とAMDAは、災害医療に関する活動、アジアの伝統医学との交流、および人材育成における連携協定を締結する運びとなり、6月17日(金)、本学にて調印式が執り行われました。

フレッシューズキャンプ2011

4月22日(金)～23日(土)、本学体育館と京都府立ゼミナールハウスにて、新入生を対象にフレッシューズキャンプが1泊2日で行われました。「医療人となる目的意識を高め、明治国際医療大学の学生として課題達成のために一体となって勉学を含む学生生活に取り組む決意を固める」を目的とし、2～4年生の在学学生ボランティアが中心となってスポーツ大会や、パネルトーク、グループディスカッションを企画し大変充実した2日間でした。今回初めて3学部合同で行うことで、単に先輩後輩という縦のつながりだけでなく、他学部との横の交流も持つことで、新入生だけでなく在学学生にとっても実り多いキャンプとなりました。



通信制大学院入学式

このたび、大学院鍼灸学研究科鍼灸学専攻に日本初、世界初となる「通信教育課程」を開設し、去る4月10日(日)に記念すべき第1回入学式を挙行了しました。今や鍼灸は世界の約120ヶ国で行われており、グローバル化が進んでいます。本学は、我国において唯一博士課程を有する大学としてのミッションから通信制の大学院の開設に踏み切りました。その理由は、有為な人材に大学院教育を保障するためです。鍼灸学に関する大学院が極めて少ない現状において、本通信教育課程の開設により、地理的・時間的制約から進学を断念せざるを得なかった研究心旺盛な鍼灸師の先生方により大学院教育の機会を提供できるようになりました。このように本課程が通信制という性質を持つことから、全国各地からの志願があり、第1期生は、定員16名に対し26名の入学となりました。



第15回 学長杯野球大会



学長杯野球大会の本戦トーナメントが行われました。今回は天候の関係で日程を組むのに苦労しましたが、2回生を中心に皆で協力して運営を行いました。また、試合は普段は接することの少ない他の学年や、野球経験のない学生も楽しんで交流出来ました。決勝戦は6月30日に日吉殿田グラウンドにてナイターで行われ、鍼灸3回生対鍼灸1回生の勝負となり、1-0で鍼灸3回生が勝利し、3連覇を果たしました。本学では、毎年春と秋に学長杯野球大会が行われています。

(保健医療学部2年生 秋山翔太)

優勝 鍼灸学部3回生

準優勝 鍼灸学部1回生

3位 保健医療学部4回生

4位 保健医療学部3回生

5位 鍼灸学部4回生

明治国際医療大学

行事予定 10/1~3/31

日程		行事
10月	3日(月)	創立記念日
	15日(土)~16日(日)	たには祭
1月	10日(火)~16日(月)	学年末試験(保健医療学部4年・看護学部4年)
	10日(火)~23日(月)	学年末試験(鍼灸学部3~4年・保健医療学部3年)
	31日(火)~2/13日(月)	学年末試験(鍼灸学部1~2年・保健医療学部1~2年・看護学部1年)
2月	6日(月)~17日(金)	学年末試験(看護学部2年)
3月	15日(木)	卒業式



平成23年度 京カレッジ市民教養講座

大学コンソーシアム京都 京カレッジ市民教養講座「グッドエイジングに向けて」

場所 キャンパスプラザ京都(京都駅前) 受講料 無料

開催月日	区分	サブテーマ
平成23年9月4日(日) 10時30分~15時30分	10:30~12:30 講演(午前の部)	腰痛を防ごう (講演:応用柔道整復学Iユニット 中川貴雄教授)
	13:30~15:30 講演(午後の部)	
	内容:講演とデモ90分、質問30分	
平成23年10月30日(日) 10時30分~15時30分	10:30~12:30 講演(午前の部)	認知症を持つ人と上手につきあうにはどうすればいいのか (講演:老年看護学ユニット 山田皓子教授)
	13:30~15:30 講演(午後の部)	
	内容:講演90分、リラックス体操20分	

平成23年度 附属統合医療センター市民公開講座

時間 午後2時から3時30分 場所 明治アニバーサリーホール(京都エミナス内) 受講料 無料

<p>平成23年8月6日(土)「漢方で健やかに」 明治国際医療大学附属統合医療センター准教授 田中邦雄</p>	<p>平成23年12月3日(土)「サプリメントの使い方」 明治国際医療大学附属統合医療センター長 今西二郎</p>
<p>平成23年9月17日(土)「暮らしの中のアロマセラピー」 明治国際医療大学附属統合医療センター講師 岸田聡子</p>	<p>平成24年1月14日(土)「パネルディスカッション“肩こり” 漢方、鍼灸、アロマセラピー、マッサージ、運動療法など 明治国際医療大学附属統合医療センター スタッフ 医師、鍼灸師、マッサージ師、アロマセラピストなど</p>
<p>平成23年10月1日(土)「ヨーガと健康:講演と実技」 東邦大学医療センター大橋病院麻酔科・日本ヨーガ療法学会副理事長 木村宏輝 ヨーガ療法士 敷佳子</p>	<p>平成24年2月4日(土)「パネルディスカッション“腰痛” 漢方、鍼灸、アロマセラピー、マッサージ、運動療法など 明治国際医療大学附属統合医療センター スタッフ 医師、鍼灸師、マッサージ師、アロマセラピストなど</p>

編集後記

東日本大震災の衝撃をまだ充分言葉としてつくせない日々が続いています。繰り返された津波の映像は、その悲惨さが、遠く離れてさえ視る人の心に大きな負担となることを教えてくれました。東洋医学や看護学が人にやさしい医療を目指すならば、この過酷でストレスフルな現実にもどのように対応するのか、出来るのか、思わず立ち止まってしまう。身体を動かすこととして、鍼灸ボランティアとして教員が、また学生のボランティア活動、義援金活動などを通じて本学学生・教職員が少しでも役割を担おうとしています。さて、4月に新入学生を迎えて、はじめての3学部合同のフレッシューズキャンプが美山町で行われ、在学、若手教員が参加して医療人を目指す本学の精神を語り合いました。

(文責:田中忠蔵)

当大学だよりに関するご意見ご要望および記事のご投稿は、大学事務局 教学課までお願いします。



2008年4月 明治鍼灸大学から改称

鍼灸学部[鍼灸学科] * 保健医療学部[柔道整復学科] * 看護学部[看護学科] * 大学院[鍼灸学研究科]

〒629-0392 京都府南丹市日吉町 TEL 0771-72-1183 FAX 0771-72-1189

E-mail exam@meiji-u.ac.jp 携帯サイト www.meiji-u.ac.jp/i/



財団法人日本高等
教育評価機構より
大学評価基準を
満たしていると認定
されました。

2008.4-2015.3